

社会福祉法人笠木福祉会 放課後等デイともだち 発行責任者 中根賢明

子どもの最善の利益を求めて―「ともだち」の願い―⑤

管理者:中根賢明

1) 子どもに《生きる力》となる「体力」を！—part2

【体力がつく「食事」と「運動」を！】

長かった夏休みが終わりました。

長期休業でない学校があるときは、授業がながいため下校時間が遅くなり、したがって「ともだち」で活動する時間も短く、やりたいができません。その点、長期休業中は、朝から夕方まで時間はたっぷりあります。そのため、戸外でのさまざまな活動に取り組みました。子どもたちも、大いに楽しんだと思います。そして少しずつ「たくましく」なったと感じています。子どもの活動で感じたことは「みんなそれぞれ性格・個性は違うけど、それぞれに優しい子どもたち」ということでした。

また遠出の屋外活動が多かったために、「弁当持参の活動」が10回ありました。そして、その度にみんなが「手づくり弁当」を持ってきたことに感心しました。

子どもたちは弁当が大好き。行き先はどこでもいい、晴れも雨も関係がない、弁当さえあれば幸せなのです。

仕事場にいつも手弁当をもっていく方は、弁当づくりはそう苦にならないかもしれません。でも、そうでない方は「面倒なこと」だったと思います。

そう思ったときに、手づくり弁当は、子どもへの愛情からつくる「愛情弁当」だと感じました。愛情があるから面倒でも「わが子」のためにその労を惜しまない。その親の優しさが、子どもたちを優しい子に育てている、と思いました。

なぜ「手づくり弁当」か？それは「安く、見た目がよく、しかもおいしい！」市販の弁当は、人間の体には異物である「化学添加物」を10数類以上使っているからです。それが人間の体を蝕んでいます。それゆえ添加物を減らすために「手づくり」なのです。

【「ともだち」では、からだづくりに取り組みます】

暑かった夏も終わり、過ごしやすい季節となります。そこで暑すぎてできなかった「戸外での体づくり」を意識的に取り組みたいと思います。授業が終わってからの「放課後等デイ」ですので、あまり時間は取れませんが、戸外で「体幹をつくる」ことを第一の目標にしていろいろな活動を行います。

ご夏休みに旅行されたご家庭から、いろいろなお土産をいただき、ありがとうございました！

工場見学に行ったよ～みそ・しょうゆが出来るまでを知る～

8月27日(月)都城市、ヤマエ食品工業株式会社に13名の子どもたちと、5名の職員で工場見学に出かけました。

数日前から工場見学に行くことを子ども達に伝えていました。当日は朝の会で再確認をし、「ヤマエとは、何の工場か知ってる？」と問いかけると、すぐに「醤油！」という隼翔くん。それを聞いて「知ってる！知ってる！」と瑠唯くん。さらに質問をしました。「他にも作ってるよ！何でしょう？」すると、「みそ」と優心くんがすぐに回答。日頃からよく口にする調味料の醤油、味噌は子どもたちに身近なものだと思いました。

工場が近づくと、「ここ？」と体を乗り出して車の窓から建物をみました。駐車場で車を降りて、100メートル程歩きました。工場入り口は、車も行きかう道路でしたので、道路の白線の内側をきれいに並んで歩いていきました。「姫羽ちゃん、もう少し中(白線の内側)においで」と滉也さんが声をかけ、手を引いて教えてくれました。

入口では、数名の社員さんが出迎えて下さいました。「どうぞ、入って下さい。」と促されると、「こんにちは」と1人1人挨拶しました。工場の方も「おお！みんな元気だね。よく来たね」と暖かく受け入れて下さいました。

まず、工場のパンフレットを見ての説明を受けました。「何を作っていると思う？」と聞かれ、自信を持って「味噌」「醤油」と答えます。「どんな風に作られると思う？」と聞かれて「機械で？」「混ぜて？」と答えました。「材料・原料は何でしょうか？」と聞かれて、「大豆？」「水？」「塩？」「さとう？？」と自信なさそうな子ども達でした。説明者が「味噌も醤油も原料は大豆とこうじです」と教えてくれると、「あ、こうじって知ってる！こうじを混ぜるんだよ、そしたら醤油になる」と隼翔くん。「よく知ってるね」と褒められて「うん」と嬉しそうでした。さらに、「醤油は、大豆にこうじと小麦を混ぜたもので出来ています。味噌は、大豆にこうじと大麦を混ぜたもので出来ています」という説明を聞き「へえー違うんだー」とつぶやいた隼翔くんでした。

説明が終わると、「さあ、では、工場を案内します」と言われて、工場の中へ。製造工程の建物毎に立ち止まっては丁寧に説明して下さいました。稼働させている工場内の機械を見せてもらったり、原材料の実物を見たり触れたりしました。味噌の蔵は、温度が一定に保たれており涼しい中で、クラシック曲が流れています。「なんで音楽が流れてるの？」と疑問に思い聞いてみた瑠唯くん。すると、「味噌も音楽聴いて寝かせているんだよ。自分たちと一緒に、ゆっくり気持ち良くしてあげると優しい美味しさになるんだよ。これはヤマエの社長(さん)のこだわり！」と教えてくれました。「気持ちよさそうだな」というつぶ

やきも聞かれました。先へと歩いていると、匂いも変化がありました。大豆やこうじそのものの匂いから徐々によく知る醤油の匂いが漂っていると「お腹すいた」「せんべいの匂いがする」と声のトーンが上がりました。

最後に醤油の仕上げの工程では、醤油が注がれた容器(商品)が機械の上を勢いよく流れていく様子に釘付けになって見つめていました。



工場内を見て回り元の場所に出ると、「わあー」と満足そうに笑顔を見せながら、「すごかったーたのしかったー」と子ども達。案内して下さいました方の側において、隼翔君は、話をしっかり聞いていたからか、「味噌と醤油はこうじを入れて発酵させるんだよ。作るのは大変なんだよ」とみんなに話してくれました。

帰る時もまた「ありがとうございました」と1人1人が社員さんとタッチして別れました。車が出るまで見送って下さり子どもたちは見送る方々に「バイバイ」「また来るね」「ありがとございました」と車内から手を振っていました。

見て、触れて、聞いて、匂いを感じることでできたこの工場見学を通して、食べる事への意欲にもつながってほしいと思っています。

